

香取台小学校PTAの概要（案）

1. そもそもPTAとは？

- 19世紀末にアメリカで生まれた、全米母親議会在が発端
- 日本には戦後GHQが導入を奨励
- 「教育民主化のため」の父母と先生の委員会・・・PTAに

- 児童生徒の健全な成長をはかることを目的とし、
- 親と教師とが協力して、
- 学校および家庭における教育に関し、理解を深め、その教育の振興につとめ、
- さらに、児童生徒の校外における生活の指導、地域における教育環境の改善、充
実をはかるための会員相互の学習その他必要な活動を行う団体である。

引用；昭和42年(1967)6月、社会教育審議会
「父母と先生の会のあり方について」

2. 児童と保護者、教職員を巡る環境の変化

保護者

- 少子家庭、核家族化
- 共働き世帯、ひとり親世帯の増加
- ライフスタイル、価値観の多様化
- 所得格差の拡大

教職員

- 授業以外の業務量の増大
- 長時間労働の恒常化
- ライフスタイル、価値観の多様化

3. 香取台小PTAのコンセプト（基本概念）

- 「一人ひとりが幸せな人生を送ることを最上位の目標」。これは「つくば市教育大綱」に掲げられた、つくばの教育が目指すものです
- この目指すものには、子どもの学びの場の実現に向けて、保護者や学校、地域、行政の対話と協働の推進が掲げられています。
- 対話とは他者との異見の背景や価値観を相互理解するプロセス、協働とは異なる者同士が手を携えて共通項目的に向かって取り組むこと。
- これを実現するために、新たなスタートを迎える香取台小の保護者と教職員が学校にどうかかわると良いのか、検討を進めてきました。
- 昨今の児童を取り巻く環境はPTAがカタチづられた昭和中期とは様変わりし、一人ひとりの家庭環境も多様な状況にあります。特に日本の少子社会の流れとは一線を画し、沿線開発の産物である香取台地区の状況も踏まえた、時代やライフスタイルにあった当校独自PTAが求められるモノと考えています。
- 児童の幸せのために、保護者と先生が心豊かに活動するPTAを目指していきます。

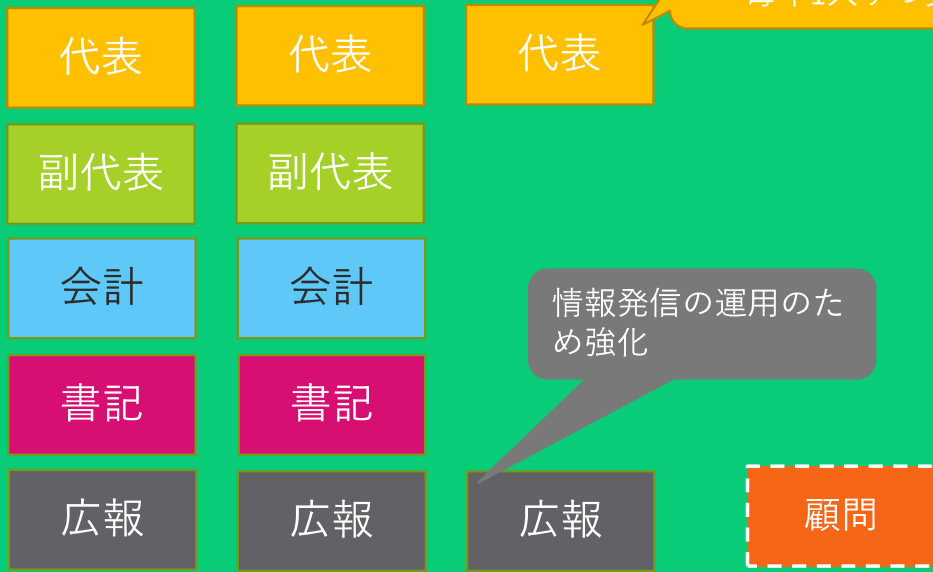
4. 香取台小PTAの特徴-①

1. 組織

- I. トップの代表は3名による共同代表制（規程には若干名とする）
- II. 役員は公募（自薦・他薦）→説明会→選考会で候補者を選定し総会で承認・決定する
- III. 専門委員会は基本的に廃止、必要な行事ごとに参加を募る形式とする
- IV. 全会員が参加するもの（立哨当番、奉仕作業）、プロジェクトチームを組成して参加するものに分けて運営する。
 - I. 例）運動会PT、交通安全PTなど
- V. プロジェクトチームの統括は役員の中に「事業マネジメント」を置き、そのメンバーでまとめていく。

香取台小PTA組織案

運営チーム



3・4・5年保護者
毎年1人ずつ交代

情報発信の運用のため強化

監事

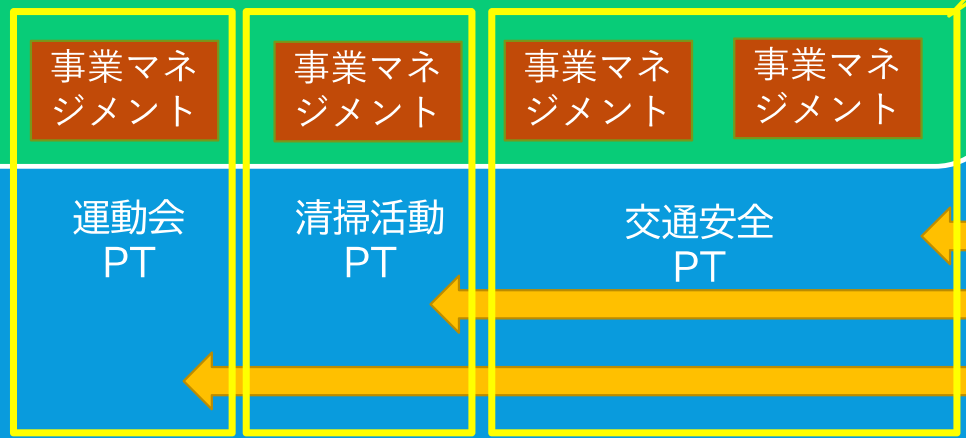
監事

検討点：

- 登校班を置いたら地区委員のようなものが必要？
- 学年委員を廃止することで運営チームに生じる学年ごとのばらつきをよしとするか。

必要なタスク・イベントに応じてプロジェクトを置く

イベントごとに活動できる方を募集、手上げ方式で参加いただく



5. 香取台小PTAの特徴-②

2. 会計

- I. 会費収入を主として実施
- II. 廃品回収に代わる、地域・時宜にかなう収益源を検討する
- III. 会費は島名小と同額の月額350円

3. 入退会

- I. 任意加入の組織であることを明文化し、入退会手続きを実施する。
- II. 未加入・退会者に教育上の不利益が被らないよう配慮する

4. 情報公開

- I. Webの活用により、活動の内容の発信を強化する
- II. 都度参加を募るプロジェクトチームなどは、Webでの募集を図る

6. 島名小PTAとの違い

	島名小（現在）	香取台小
コンセプト		保護者と先生が楽しみながら、子どものために関われるPTA
会員の受け止め	やらなければならない。結果（負担）の平等	やりたいから関わる。多様な家庭環境をふまえた「できる範囲」での関わり。機会の公平。
会員	入退会のルールは無し、一子一役、規約上はP・T以外も可能	任意加入を明確化、毎年意思確認を行う？。役職の強制は無し、対象者は保護者と教職員であることを明記
幹部組織	理事会を組織、運営	運営チームに名称変更、学年委員は廃止のため除く。
役員選考	一本釣り→総会承認	公募（自薦・他薦）→説明会→運営チームでの候補者選定→総会承認
主な事業	専門委員に紐づく、やることの固定化	廃止候補：廃品回収 時代に合った名称変更：成人教養（大人の学び）、校外指導（生活支援）、奉仕作業（清掃・環境維持） 新たに必要な事業がないかは継続して検討
専門委員会	行事に合わせて委員会を設置	専門委員会は無し、役員の中に「事業マネジメント」を置き、必要に応じてプロジェクトチームを組成して運営する。
会員情報の発信	小学校のHP中心	会員に対して安心感を訴求し、小まめに発信するには独自のHPが必要